

第5回 沖縄科学技術大学院大学学園の今後の諸課題に関する検討会 議事要旨

1. 日時：平成27年6月22日（月）12:45～14:45
2. 場所：沖縄科学技術大学院大学（沖縄県恩納村）
3. 出席者
 - (1) 検討会委員
平澤座長、伊集院委員、門永委員、長岡委員、西澤委員
 - (2) 内閣府
石原沖縄振興局長、橋本事業振興室長、中嶋企画官、新田専門官、小林係長
 - (3) 沖縄科学技術大学院大学
ドーファン学長、バックマン首席副学長、イワマ上席副学長、菅原学長特別顧問、久保副学長、高梨副学長、小桐間准副学長、浅井理事長補佐

4. 議事要旨

議事1 平成26年度における学園の業務実績について

議事2 その他

沖縄科学技術大学院大学学園のドーファン学長より、平成26年度における学園の業務実績、ピア・レビュー、第4期生の選抜状況について説明があり、概ね以下の質疑応答があった。（○は委員の意見又は質問、→はOISTの回答）

- OISTの研究者は設立準備段階では世界上位5%以内が採用の基準とされていると承知しているが、平成26年度に実施した研究者の評価について、上位15%と評価された研究者も研究継続となっている。これには何か特別な事情があるのか。
- OISTが欲しい研究者は、一般的なレビューとして上位5～10%のグループ。今回15%と評価された研究者の研究自体は10%に入るが、他の世界のプログラムと比較すると更に成長しなければならないプログラムということで、現在は15%であるが今後は10%以内に入っていると評価を受けたもの。上位10%を基準とすることは変わっていない。
- 今年の前年の入学試験について、選抜された学生のうち、入学希望者が昨年と比べて少ないように思われる。これまでの3年間で、最終的に入学することとなった学生の質を比べたことはあるか。
- OISTを志願する学生のレベルは高くなっており、他の選択肢を持った優秀な学生が増えたことに伴い、他大学を選択する学生の数が増えている。OISTに入学する学生は、第2志望とかいうことではなく、他大学と比べてどちらが良いかを選んで入学している。非常に注意深く見ているが、学生の質に違いはない。
- OISTは開学から4年間で良いスタートを切ったと思う。今夏のピア・レビューは非常

に重要と考える。ピア・レビューの評価者に必要なことは、OIST はまだ十分な成果を出していないが、今後成果を出していけそうかどうか、ということ判断して政府を含め対外的に伝えられる能力である。

- 将来に向けた視点を持ちながら OIST の成果を評価していくことは大事だが、ピア・レビューは、我々がこれまで出してきた成果に対して現時点で評価してもらうものである。
- 評価論の観点から言うと、その組織に課された使命に即してどうかということが判断されなければならない。OIST の設置目的に照らして、どのような成果を出しているのかが重要である。
- OIST は、国が実験的投資をしたことによって存在している。それはもっともなことである。難しい部分は、このチャレンジには時間がかかるということであり、それは評価者も分かっていると思う。
- 産学連携をしっかりとやっていくのであれば、利益相反マネジメント等のコンプライアンスが貧弱だと思われるが、どのように考えているか。配布した資料は要約版であるが、OIST では、利益相反のポリシーを作り、その規定に基づき毎年度全員に「外部活動に関する利益相反開示書」を提出させ、疑問があれば委員会を開くという体制を作っている。組織としての利益相反、個人としての利益相反を防止するための取組をしている。
- OIST はこれだけグローバル化して最先端の研究をやっているのに、輸出安全保障についても、業務実績報告書に記載すべきである。

(注) 第5回検討会に先立って、同日午前中に、検討会委員による研究棟視察、研究員・学生との対談等が行われた。

(以上)